

ノトス

二六

### 第三章 日滿經濟共同委員會關係外ノ日滿經濟關係

日滿兩國關係經濟事項ニシテ其ノ性質又ハ内容ニ依リ日滿經濟共同委員會ニ諮問ノ手續採ラレザリシモ對滿事務局事務會議ノ決定トナリシモノ相當アル處特ニ主要ナルモノ左記ノ通ナリ

#### (一) 撫順頁岩粗油第二期五十萬噸增產計畫基本要綱

日滿兩國ノ燃料政策ニ資センカ爲南滿洲鐵道株式會社ヲシテ左記要領ニ依リ撫順炭礦頁岩粗油第二期五十萬噸生

#### 第一方 針

#### 一、生産目標

生産品ノ目標ヲ左記ノ通りトシ昭和十八年末迄ニ之ニ到達セン

#### (一) 主要製品

一號輕油(比重〇・八一五)	三〇、四〇〇 <sub>斤</sub>
二號重油(比重〇・八五五)	二七、七〇〇
計	三〇六、一〇〇

#### (二) 副製品

分解揮發油(比重〇・七三八)	六七、二〇〇 <sub>斤</sub>
分解散炭	一九、六〇〇
直縮散炭	三四、六〇〇
硫安	九二、四〇〇

SP. 325

32

(註) 本計畫ヲ昭和十八年末迄ニ完成セシムルタメニ昭和十四年度中ニ起業準備ニ着手セシムル要アルモノトス

#### 二、事業費 一五三、〇〇四、二八〇圓

#### (一) 製油工場事業費

破碎工場	五、八九四、四〇〇 <sub>円</sub>
廢棄頁岩積込設備	一、三九四、〇〇〇
塊鑽乾餾工場	二二、九三七、三〇〇
粉鑽乾餾工場	一〇、三三〇、九〇〇
重油工場	一六、五三七、二〇〇
揮發油工場	五、一六〇、〇〇〇
計	六二、七五八、四〇〇 <sub>円</sub>

#### 雜施設

工場外(露天掘ヲ含ム)事業費	九、五一四、六〇〇 <sub>円</sub>
露天掘施設	七、七五八、四〇〇
諸施設	四四、〇七八、〇〇〇 <sub>円</sub>
諸經費	二六、七二七、二〇〇
計	一〇、四五〇、六八〇
合 計	八二、二四五、八八〇
計	一五三、〇〇四、二八〇

三、日滿兩國政府ハ本事業ノ特質ニ鑑ミ左記要領ニ依リ積極的援助ヲ與ヘ本計畫ノ容易且迅速ナル實現ヲ期シ得ル如ク措置スルモノトス

#### 記

- (一) 日滿兩國政府ハ資材ノ配給ニ關シ特別ノ考慮ヲナスコト
- (二) 滿洲國政府ハ本事業ニ直接必要ナル資材ニ對シ輸入税ノ免除ヲナス様措置スルコト
- (三) 滿洲國政府ハ本事業ニ必要ナル土地ノ買収ニ關シ積極的ニ便宜ヲ供與スルコト
- (四) 本計畫ニ依ル製品ハ少クトモ生産費ヲ以テ販賣シ得ル如ク日滿兩國政府ニ於テ措置スルコト
- (五) 日本政府ハ本事業所要資金ノ多額ナルニ鑑ミ滿鐵ノ資金調達ニ關シ特ニ考慮スルコト

二七

SP. 325

33

諒解事項

本計畫遂行ノ爲既定ノ滿鐵事業計畫ニ影響ヲ及ボササル如ク努ムルモノトス

(二) 日本中小工業ノ滿洲移植暫行對策要綱

第一方 針

滿洲國ニ於ケル産業五ヶ年計畫並北邊振興計畫ノ圓滑ナル遂行及民生ノ向上ニ寄與スルト共ニ日本ニ於ケル不振中小工業對策措置トシテ過剩中小工業ノ一部ヲ滿洲國內ニ移植セントス

第二要 領

- 一、移植ヲ獎勵ス可キ中小工業ノ範圍ハ次ノ通りトス
  - (イ) 産業五ヶ年計畫ノ基幹産業ニ對シ從屬的ニ必要ナルモノ
  - (ロ) 北邊振興計畫ニ基ク修理工業確立上必要ナルモノ
  - (ハ) 生活必需品ニ關スル工業中全體的ニ不足セルモノニシテ原材料ノ供給可能ナルモノ
- 二、本年度ハ北邊振興計畫ニ基ク修理工業確立上必要ナルモノヲ國境地帯ニ約十工場其ノ他ノモノヲ奉天其他ニ約二十工場々々移植ス

- 三、移植工場ハ工場主カ設備及従業員ト共ニ包括的移植ヲナスモノニ限ル
- 四、滿洲國政府ハ移植獎勵ノ爲注文、低利資金ノ融通及渡航費ノ割引ニ付幹旋ヲ行フト共ニ機械移轉費、渡航費(休業中ノ生活費ヲ含ム)ヲ補助シ尙國境地帯移植ノモノニ付テハ別ニ設備費及營業費ノ一部ヲ補助ス

五、日本政府ハ左ノ事項ニ付所要ノ措置ヲ講スルモノトス

- (イ) 移植スヘキ工場ノ選定ノ幹旋
  - (ロ) 移植スヘキ業者ニ對スル助成
- 六、本計畫ノ實施ニ付テハ基幹工場ニ於テ責任ヲ以テ注文ノ供與、技術ノ指導等ヲ行ヒ實質上ノ專屬工場タラシムル如ク措置ス
- 七、助成上必要アルトキハ移植工場ヲシテ組合ヲ組織セシム

備考

- (一) 差當リ本年度ニ於ケル移植實行ノ範圍ハ主トシテ轉業對象上緊急ナルモノニ限ル事トス
- (二) 滿洲國內既存中小工業トノ關係調整ニ關シテハ中小工業對策ノ一部トシテ別途考究ス
- (三) 本計畫ノ實施ニ當リテハ日本ニ於ケル生産力擴充計畫並之ニ伴フ勞務供給計畫等トノ調整ニ留意シ之ニ即應スル如ク措置スルモノトス

諒解事項

本年度ニ於ケル計畫ノ實施ハ商工省拓務省相協力シテ之ニ當ルモノトシコレカ助成經費ニ就テハ既定計畫ニ依ル自由移民ノ一部トシテ取扱フモノトス

(三) 昭和十四年(康德六年)日滿間資金及物資等諸計畫樹立ニ關スル關係廳間諒解事項

要 旨

現下非常時局ニ鑑ミ昭和十四年(康德六年)日滿間爲替及物資等諸計畫樹立ニ際シテハ昭和十三年七月十一日附

「日本側時局物動計畫ニ關スル滿洲側協力寄與方ニ對スル關係應覺書」ニ照應スル昭和十三年十月十四日對滿事務局事務官會議決定「非常時局對處ノ爲物資ノ供給並第三國關係爲替ニ關スル日滿協力ノ件」ノ趣旨ヲ益々鞏化スルコトヲ主眼トシ日滿間ノ特殊事情ヲモ考慮ニ加ヘ概ネ左記要領ヲ以テ速ニ具體的計畫ノ樹立ヲ圖ルモノトス

記

- 一、昭和十四年度日本側（之ニ相應スル滿洲側）物動計畫樹立ニ當リテハ重要物資ニ關スル滿洲現地側期待額ハ別表（一）ノ如クナル處右ニ關シテハ相互ニ極力之カ實現ニ努ムルコトシ尙在滿部隊ノ現地調達ニ付考慮スルモノトス
- 二、昭和十四年（康德六年）ニ於テ滿洲國ハ日本ニ對シ概ネ三五、〇〇〇千圓ヲ下ラサル額ノ爲替資金ヲ負擔スルモノトス右ノ内約三五、〇〇〇千圓ハ之ヲ在滿日本軍間接軍需ニ充當スルコトトス尙昭和十三年（康德五年）ニ於ケル滿伊協定分概ネ三、三〇〇千圓ハ日本側ニ繰越供給シ又日本ハ昭和十四年（康德六年）ニ於テ在滿日本軍間接軍需ノ爲前記滿洲側期待額表所掲ノ外鋼材五萬噸ノ供給ヲ行フモノトス
- 三、昭和十四年（康德六年）滿洲側日貨公社債發行計畫ノ標準ハ別表（二）ノ如クナル處同年度日滿收支計畫ノ樹立ニ當リテハ日本側ハ之カ圓滿ナル實現ニ付テ極力援助ヲ爲スモノトシ滿洲側ハ調達ノ時期方法及調達資金ノ運用等ニ關シ日本ノ通貨及金融政策ニ順應スル如ク措置スルモノトス

附記

日本ニ於ケル生産力擴充四年計畫並滿洲ニ於ケル産業開發五年計畫第三年度以降ノ實施ニ當リテハ夫々其ノ實情ヲ究メ日滿兩國ヲ打ツテ一丸トスル原料製品一貫ノ自給自足經濟ノ急速確立ヲ目標トシテ兩國ノ資源賦存狀況及開發ノ能率乃至速度ヲ勘案シ兩計畫トモ眞ニ日滿一體ノ綜合的の見地ヨリ適宜調整ヲ行ヒ時局緊急ノ要請ニ對處シテ其ノ急速ナル效率増進ニ努ムルモノトス

別表（一）

種目	單位	對滿供給		對日供給	
		軍需ノ爲	其ノ他	軍需現地取得	其ノ他
普通鋼材(統制品種)	千噸	九五	四五五	五五	五五
特殊鋼材	同	二	八	二	一
中製鋼材	同	一	一	一	一
普通鋼材	同	一	一	一	一
低炭鋼	同	一	一	一	一
電氣鋼	同	一	一	一	一
鉛炭	同	一	一	一	一
石炭	千噸	二六	四二	四八	六〇〇
揮發油	同	一	一	一	一
重油	同	一	一	一	一
機械油	同	一	一	一	一
生油	同	一	一	一	一
玉米	千噸	八六八	一四三二	一〇	三〇〇〇
高粱	同	一	一	一	一
混合飼料	同	一	一	一	一

備考  
 一、對日發注ノ車輛、機械類、通信機等ノ素材類ハ別途トス  
 二、×印揮發油及機械油ノ供給額ノ確保等ニ關シテハ軍用石油貯蔵用ヲ含ムトシテ之ニ相當スル原油輸入爲替ヲ日本側ヨリ供給スル事  
 ニヨリ適宜措置スルモノトス

別表(二)

日貨公社債發行計畫

總額	八三三、〇〇〇 <small>千圓</small>	滿	七三三、〇〇〇 <small>千圓</small>
(內)新規	六三三、〇〇〇 <small>千圓</small>	拓	一八〇、〇〇〇 <small>千圓</small>
政	二五〇、〇〇〇 <small>千圓</small>	其	三三〇、〇〇〇 <small>千圓</small>
府		ノ	
		他	

(四) 産業五箇年計畫

滿洲國産業開發五箇年計畫ノ第二年度實績ニ關シ昭和十四年四月、滿洲國星野總務廳長官東上、大藏省ニ於テ說明ヲナセル處要領左ノ如シ

本計畫ハ初年度タル昭和十二年ニ於テ偶々支那事變ニ遭遇セルタメ戰時體制下ニ於ケル生産力擴充等ノ必要上全般ノ擴大修正ヲ加ヘラレ且ツ施設諸關係ノ物資資材ニ於テ入手困難、動力不足等凡ユル障礙ニ逢着セルニモ拘ハラズ滿洲國政府ハ固ヨリ計畫實行擔當者タル特殊會社並一般會社ノ興學ナル努力ト日本側諸機關ノ協力ニ依リ概テ豫定ノ實績ヲ擧クルヲ得タリ即チ鑛工業部門ハ豫定ノ八〇%、農業部門ハ一〇〇%、開拓部門ハ八〇%、鐵道交通部門ハ一〇〇%、資金部門ハ一〇〇%ノ成績ナル處、戰時體制下ニ於ケル生産力擴充ノ要請ニ基キ第三年度ニ於テ更ニ積極的躍進ヲ期スヘク昭和十四年四月鑛工業部門ニ重點ヲ置ク生産力新擴充計畫ヲ樹立シ一段ノ努力ヲ傾クルコトナリタリ

一、鑛工業部門

1、滿洲國ノ重工業確立ノ最大要件タル鑛工業部門中特ニ顯著ナル成績ヲ擧ケタルハ鐵鑛、「オイルセル」、電力發電事業ニシテ銑鐵九一%、鋼塊九七%、鋼片九八%ニシテ鋼材ノ如キハ一〇六%ノ驚異的數字ヲ示シ更ニ石油資源獲得ニ必要ナル頁岩油ハ一〇〇%、之カ動力トナル火力電氣ハ九四%ニ達シタリ

2、石炭ハ八七%、金ハ六一%ニシテ豫定通りノ産出ヲ見ルニ至ラサリシカ金ノ産出不足ハ從來ノ未開拓ニ基因スルモノト謂フヘシ

二、農産部門

1、地方別作況ヲ見ルニ中滿ハ平年作、北滿、南滿ハ之ニ次キ東滿地方ハ稍低下セルモ作付面積ハ豫定ヨリ増加セリ

2、高粱一一二%、包米一〇五%、苧麻一〇二%ナルカ殊ニ輸出品ノ大宗タル大豆ハ應急増産策ヲ樹立シテ増産ヲ圖レル結果一〇五%ノ著シキ増産ヲ示シ外貨獲得ヲ便ナラシメツツアリ

3、小麥七九%、棉花六八%ト相當ノ減産ヲ示シタルカ右ハ播種期ニ於ケル寒冷、水害、旱魃等ノ自然地理的  
障礙ニ基因スルモノナリ

三、畜産部門

1、種羊ハ九八%ノ成績ニシテ改良雜種ハ一〇七%ノ増産ヲ見、羊毛ハ九八%、其ノ中改良雜種ハ一一%著  
シキ増産ヲ示セリ

2、馬ノ増産ハ九〇%ニシテ其ノ改良事業ハ一〇〇%ノ好成绩ヲ擧ケタリ

3、牛ノ増産ハ在來種九八%、改良種一〇〇%ニシテ輸入計畫即チ朝鮮牛ノ輸入ハ一一四%ナリ、豚モ牛ト略  
同様ノ成績ナリ

四、開拓部門

從來ノ集團、集合開拓民ハ青少年義勇隊ノ入植實施、開拓機構ノ改革(滿拓公社ノ設立)等將來ノ開拓政策ニ  
一大「ポイント」ヲ與ヘタルカ實績ハ集團開拓民八一%、集合開拓民六三%、義勇隊七一%ナリ

五、交通通信部門

1、國鐵一〇〇%、私鐵七〇%

2、道路、國防線、治安產業線ノ増大(建設改良)二二五%ノ劃期的成功ヲ收メ將來ノ產業開發ニ拍車ヲ加ヘ  
タリ

3、電氣施設關係ハ銅不足ノ爲メ八〇%ヲ確得セルカ「アルミニウム」代用ニ依リ第三年度ニ於テハ相當ノ

成績ヲ示スコトナルヘシ

六、資金部門

支那事變下ナルニモ拘ハラズ資金調達ハ豫想以上ノ好成绩ヲ示シ鑛工業部門九五%、農畜開拓部門一四九%、  
交通通信部門一〇五%ニシテ實ニ平均一一四%ノ優秀ナル成績ヲ收メタリ

(五) 國境建設委員會(北邊振興三箇年計畫)

昭和十四年初頭關東軍、滿洲國政府及滿洲國特殊會社主體トナリテ國境建設委員會ヲ組織セルカ之ハ專ラ軍事上  
ノ見地ヨリ興安嶺、小興安嶺及東部山系ノ外側斜面國境ニ至ル迄ノ國境地帯ニ於テ軍隊ノ急激ナル増加ニ拘ラス  
各種施設甚タ不備ナル爲、對蘇準備ノ一環トシテ右國境方面ニ於ケル國防的建設ヲ充實セシムル目的ヲ以テ鐵  
道、通信、飛行場、勞働力、馬匹、燃料、各種物資、建設資料、防空、銃後各機關等ノ各般ニ亘リ綜合的、組織  
的ノ建設及刷新ヲ企圖セルモノニシテ、之ニ要スル資金約十億圓ヲ計上シ、三ヶ年計畫ヲ以テ康徳八年末迄ニ一  
應ノ整備ヲ完了セントスルモノナリ

本件ニ關シテハ本省ニ於テモ對蘇外交ノ見地ヨリ重大ナル關心ヲ有スルニ付キ在滿大使ニ對シ國境建設會議ノ決  
定事項其ノ他建設狀況ノ進捗狀況等隨時當方ニ連絡スル様訓令シ置ケリ  
本件基本要綱左ノ如シ

國境建設實施基本要綱

第一、基本方針

現下ノ事態ニ鑑ミ日滿共同防衛ノ見地ニ基キ對蘇諸準備ノ一環トシテ北滿開發ノ一重要部門タル國境方面ニ於ケル國防的建設ニ關シ在滿兵備ノ増強、産業開發五箇年計畫ノ遂行ニ照應シツツ日滿綜合力ノ積極的協力發揮ヲ基調トシテ其ノ施策ノ集中徹底化ヲ圖ラムトス

第二、基本要領

一、一元的重點形成

國境方面ニ於ケル國防的建設ニ對スル諸施策ニ關シテハ在滿日本軍隊ノ増強、對蘇作戰諸準備其ノ他軍事ノ諸要請ヲ勘案シ在滿諸機關ノ積極的協力ニ依リ原則トシテ軍、官、民一途各々日滿共同防衛ノ本義ヲ自覺シ積極的ニ建設事業ニ協力邁進セシムル如ク諸施策ヲ一元的重點主義ニ歸一スルト共ニ重點主義ニ則リ第一期(三年)計畫トシテ概ネ康德八年末(昭和十六年末)迄ニ主要方面ニ付テ之ヲ構成シ爾後其ノ完成ヲ期スルモノトス

重點形成ニ當リテハ地域別、年次別及事項別ニ之ヲ行フモノトス其ノ概要左ノ如シ

(一) 國境省ノ地域別重點ニ付テハ別途指示セラレタル所ニ依ル

(二) 三年計畫ノ年次別重點ニ付テハ概ネ第一年度ニ於テハ物資動員關係ヲ勘定商量シ主トシテ人カヲ其ノ遂行要素トシ又ハ軍事的要請上就中特ニ速急着手ヲ必要トスル事項ヲ實施シ然ラサルモノハ之ヲ可成次年度以降ニ於テ實施スル如ク計畫ス

(三) 事項別重點ニ付テハ國境建設策ノ本旨ニ鑑ミ事業又ハ施設ノ建設運用ニ必須ナル人員及資材關係事項ヲ含ムニ對スル有利利用ノ緊急度ニ從ヒ之ヲ定ム

(四) 國境建設策ノ計畫及實施ニ當リテハ統後民心ノ把握安定ヲ併セ考慮シ特ニ一般住民ノ衣食住補給對策ニ付機宜ノ措置ヲ用意ス

二、交通通信航空諸機能ノ整備刷新

- (一) 鐵道ニ關シテハ既定方針ニ從ヒ其ノ建設ヲ促進スルト共ニ保守及彈力整備、積卸能率ノ向上、防空對策、水災對策等ニ關シ萬遺憾ナキヲ期シ更ニ爾他運輸機關トノ連繫ヲ密ニ保持シ之カ助成強化ノ方途ヲ講ス
- (二) 道路ニ關シテハ自動車道ノ整備ニ重點ヲ置キ單ニ國境接壤地帯ニ於ケル環狀線又ハ鐵道終末ヨリスル連絡線ノミナラス對空防衛上ノ見地ニ於テ鐵道並行幹線等ノ路線増強ヲ企圖スルト共ニ水災對策、濕潤地帯通過施設凍結及雨季對策等路線保守ニ關シ適切ナル方途ヲ講ス而シテ道路構築ニ當リテハ物資補給ノ關係ヲ商量シ當初可成簡單ナル構造ニ依リ之ヲ概成シ爾後漸次之ヲ補強完成スル如ク計畫ス
- 尙地方道路ニ於テハ特ニ車馬ノ圓滑ナル交通ヲ確保スル如ク措置スルモノトス
- (2) 右ニ伴ヒ速ニ自動車ノ「サービステーション」(修理施設、保守原材料整備、給油及部分品補給ノ潤澤「ステーション」)防衛及宿泊設備等ノ整備ヲ圖ルト共ニ自動車ノ車種ノ選定及數量ノ増加並從事員ノ養成、素質ノ向上等ニ付特ニ考慮ス
- (3) 車馬ノ整備ニ關シテハ後記スル所ニ依ル
- (三) 通信ニ關シテハ軍用通信整備ト相俟テ幹線ノ「ケーブル」化及國境地方電氣通信網ノ整備ヲ促進スルト共ニ補助通信施設ノ利用ニ付特ニ考慮ス

- (2) 通信網ノ整備ニ伴ヒ通信従事員ノ擴充及素質ノ向上ヲ圖ルモノトス
- (四) 航空ニ關シテハ軍用及國營飛行場ノ増設整備等航空基礎施設ニ關シテ之ヲ強化シ併セテ一般航空路ノ應急整備、航空従業員ノ養成ヲ圖リ特ニ國境地方飛行場ノ整備擴充ニ付之ヲ急速ニ實現スルモノトス
- (五) 治水ニ關シテハ防衛上ノ便否ヲ商量シ特ニ重點地方ニ於ケル國境水路ノ整備及都市防水ニ付考慮ス

- 三、電氣及給水ノ整備
- (一) 電氣ニ關シテハ國境建設及作戰準備ニ資スルヲ主眼トシ併セテ文化施設ノ増大ヲ考慮シ電氣供給施設ノ新設、擴大及改善ヲ圖ルモノトス
- (2) 電氣供給事業ノ公益性及防衛上ノ見地ニ立脚シ一般の配電統制ノ外地區の發電及配電ノ獨立性ノ保持並彼此切替等ニ着意シ電源ノ確保及送電聯繫ニ機宜ノ措置ヲ講スルモノトス
- (二) 給水ニ關シテハ兵用給水、鐵道給水及郡邑給水各種施設ノ充實ヲ圖リ特ニ地下井水ノ供給ニ付機宜ノ方途ヲ講ス

- (2) 各種給水施設ニ關シテハ有事故ノ發生シタル場合ニ於テ相互補給ヲ可能ナラシムル如ク措置スルモノトス

- 四、開拓
- (一) 國境建設一般方針ニ準據シ日本開拓民並善良ナル鮮人開拓民及原住民ハ之ヲ國境地帯ニ於テモ定着セシメ一ハ以テ統後ノ培養力タラシムルト共ニ他ハ以テ各種ノ施策ニ活用シ得シムトニ從來ノ無住地帯ニ對シテモ
- 開拓青年義勇隊及一般優良開拓民ノ積極的入植ヲ圖リ前記企圖ニ順應シ其ノ強化ニ努ム
- (二) 入植地ニ付テハ局地的ニ軍ノ駐屯地、防衛營造物ノ關係其ノ他諜報警戒監視等ヲ考慮シ各現地ニ付其ノ實情ニ適應スル様確定スルモノトス無住地帯ニ於ケル入植ニ付テハ特ニ慎重之ヲ措置スルモノトス

- 五、勞力ノ確保
- 國境方面ニ於ケル軍用諸建築、鐵道道路等ノ建設其ノ他軍需産業ニ必要ナル勞力ノ需給ヲ合理的ニ調整スルト共ニ勞働者ノ爭奪防止、賃銀ノ規正、勞働衣食ノ補給、勞働者ノ保有等ニ付遺憾ナカラシメ以テ勞働力ヲ確保シ建設事業ノ圓滑ナル遂行ヲ圖ル

- 六、物資ノ調達及集積
- (一) 國境方面ニ於ケル物資ノ不足ト其ノ多元的調達ヲ要スル現況ニ鑑ミ努メテ現地生産ノ助長ヲ圖ルト共ニ物資ノ集積配給機關ノ統制整備及物資保有施設ノ整備ヲ行ヒ特ニ建設資材ノ取得配分ニ付遺憾ナキヲ期スルモノトス
- (二) 畜産ニ關シテハ特ニ馬産ヲ獎勵シ國境近ク相當量ノ保有ヲ爲シ得ル如キ助成ノ方途ヲ講スルト共ニ一般ニ獸疫防止ニ力ヲ致シ畜産ノ維持ニ努ム
- (三) 右ニ伴ヒ獸醫及蹄鐵工ノ養成補充ニ留意シ更ニ運搬材料資源ノ現地培養確保ニ付特別ノ考慮ヲ拂フモノトス
- (四) 國境建設輸入物資ノ現地集積ヲ圖リ軍民ノ需要ニ對スル配給ノ圓滑ヲ圖ル爲國境地方ノ要地ニ夫々必要ニ

應シ第一種又ハ第二種保税倉庫若ハ第一種保税貨場等ノ設置ヲ企圖ス

(五) 國境方面ニ於ケル軍需ノ可及的現地調辨ヲ目途トシ修理工業及手工業、「セメント」工業、煉瓦製造工業、農産加工業、石炭鑛業製炭業等ノ地方軍需産業ノ振興ヲ圖ル

尙國境地帯ニ於ケル國防保安林ノ應急造成ヲ企圖スルモノトス

七、防空諸施設ノ徹底化

國境地方ニ於ケル在滿兵備ノ増強ニ伴フ軍ノ防衛ニ即應シ重要都市及重要施設ニ付特ニ其ノ神經系統ノ防空施設ヲ整備擴充スルト共ニ其ノ連絡手段ノ刷新ヲ圖リ以テ之カ運営ノ適切合理化ヲ期シ併セテ非常時老幼婦女ノ爲ノ安居地帯ノ設定ニ付所要ノ方策ヲ確立ス

八、保健防疫

國境地帯ニ於ケル保健防疫施設ヲ擴充整備シ國境地方衛生ノ確立及民生ノ安定ヲ圖リ併セテ戰時衛生施策ノ準備ニ資ス

九、協和會其ノ他統後諸機關ノ一體の結合

(一) 國境地方ニ於ケル諸施設ノ整備ニ照應シ協和會ノ國境建設ニ對スル施策ヲ徹底強化ス

(二) 統後諸機關ハ夫々其ノ現地機能ヲ擴充強化スルト共ニ軍官トノ連繫ヲ密ニシ其ノ指導ノ下ニ協和會工作ヲ中核トシテ之ト常時一體の有機的脈絡ヲ保持シ各々其ノ目的機能ニ即應シ統後保強ノ遺憾ナキ活動ニ努ムルモノトス

十、機構整備

防衛諸準備並作戰準備ニ照應セシムル爲將又其ノ行政ノ特質ニ鑑ミ之ニ即應シ得ルカ如キ國境地方機構ヲ整頓シ軍ノ要請ヲ合理的ニ充分反映シ得シムルト共ニ平時ヨリ所謂文治機構ニ依ル軍政的運営ヲ庶幾シ以テ軍、官、民一致ノ實ヲ擧クルニ遺憾ナカラシム

(一) 防衛委員會ノ設置

平戰兩時ニ於ケル共同防衛ニ關聯スル諸般ノ事項ニ關シ連絡並調整ヲ行フノ外必要ニ應シ作戰準備關聯事項ノ統制調整ヲ圖リ以テ防衛法ノ運営ニ遺憾ナカラシムル爲現地ニ軍官民防衛關係適任者ヲ以テ構成スル防衛委員會ヲ設ク、防衛委員會ハ官制ヲ以テ之ヲ制定スルモノトス

治安維持會、治安連絡情報連絡、警護連絡委員會、警務連絡委員會防衛ニ關聯スル一切ノモノハ之ヲ右防衛委員會ニ吸收スル如ク措置スルモノトス但シ鐵道愛護連絡會議ハ當分ニ存置ス

(二) 臨時國境整備委員會(假稱)

國境地方ニ於ケル平戰兩時軍需ノ調達ヲ容易ニスルト共ニ軍需民需ノ調整連絡及物價ノ調整等ニ遺憾ナカラシムル爲中央及現地ニ軍、官、民關係適任者ヲ以テ構成スル臨時國境整備委員會(假稱)ヲ設置ス

(三) 省機構ノ充實

各省ハ夫々其ノ國境ニ於ケル特性ニ即應シ國境諸整備、開拓、防衛、産業開發等ニ關シ夫々其ノ特質ヲ發揮シ得ルカ如キ機構ヲ整へ爲シ得ル限リ其ノ獨立性ヲ強化シ特ニ國境建設ヲ積極的ニ遂行シ得シムル如ク考慮ス



尙右ノ爲要スレハ一部省區劃ノ變更ヲ行フモノトス

(四) 縣機構ノ充實

各縣特ニ國境接壤方面ニ於テハ特ニ防衛並作戰準備ニ即應スル機構ニ改組シ要スレハ一部縣行政區域ヲ變更ス

(五) 地方保安局ノ刷新充實

地方保安局ニ參與制ヲ設ケ所要ノ人的充實ヲ行フト共ニ其ノ指導ヲ適正化シ國境警察隊ノ刷新整備ト相俟テ保安局業務ニ關シ滿洲國一般警察、鐵道特殊警察其ノ他滿側一般關係官署ノ外滿鐵、電電ニ對スル統制力ヲ鞏化シ尙日本軍事警察機關トノ關係ヲ調節ス

十一、人事刷新

國境方面ニ於ケル人事ノ刷新充實ヲ圖リ清新潑刺ニシテ熱意アル人材ノ配置ヲ徹底化スルト共ニ原則トシテ第一期計畫實行期間中其ノ異動ヲ避ケ國境建設方策遂行ノ一貫性ノ保持ニ努ム

十二、經費

以上諸施策ニ伴ヒ各機關毎ニ追加豫算又ハ別途支出ノ方途ヲ以テ第一期計畫ヲ檢討ノ上所要經費及物資ヲ整備ス

第四章 滿洲國財政關係

第一節 滿洲國國債引受方ニ關スル件

十月二十五日駐日滿洲國大使阮振鐸ヨリ野村外務大臣宛同國滿洲重工業開發株式會社ノ今年中ノ社債發行豫定額中二〇、〇〇〇、〇〇〇圓ヲ大藏省預金部ニ於テ引受方依頼シ來レルヲ以テ當方ヨリ大藏省預金部資金局長宛通牒シ置キタル處十月三十一日附ヲ以テ大藏省ヨリ額面二千萬圓ヲ限リ同社債ヲ買入ルルコトニ決定シタル旨通牒越シタルニ付右ノ旨駐日滿洲國大使館宛通報シ置キタリ

第五章 滿洲移民問題

昭和十三年末以來日滿關係機關内部ニ於テ移民政策ノ根本的調整ヲ圖ラントスル企圖アリタルカ右ハ急速ニ具體化シ軍側主體トナリテ作成セル移民根本國策基本要綱ヲ中心ニ十二月十日、關東軍、日本大使館、滿側關係機關會同シ

- 一、移民事業處理機關問題
- (イ) 移民關係行政機構ノ一元的擴充
- (ロ) 滿拓改組、鮮拓統合
- (ハ) 拓植委員會
- (ホ) 移民行政ノ人的關係等
- 二、移民區分及入植要領
- 三、移民用土地ニ關スル問題
- 四、民族協和ニ關スル問題
- 五、移住地行政經濟機構
- 六、農業經營及生活様式
- 七、青年義勇軍
- 八、財政經濟問題
- 九、輸送宣傳及民間後援
- 一〇、教育文化社會宗教等
- 一一、日本側ノ措置
- 一二、日滿協定並補助法